

2013 年度 A O 入試課題 (経済学部・A 方式)

課題の作成に当たっては別紙の注意事項に従い、作成してください。

課題 1 本学部では、体系的に学修していただきたいという思いから、4 つの履修モデルがあります。あなたはこの 4 つの履修モデルのうちどれを参考にして学修していきたいと思えますか？職業など卒業後の目標との関連も含め 400 字以内でまとめなさい。

課題 2 まず課題 1 で選んだ履修モデル用の課題文と参考資料をよく読んでください。その後、その要約、近年の動向、自分の考えなどの下記の設問に答えてください。

企業・産業履修モデルを選んだ方

- (1) 課題文の要約を 800 字以内でまとめなさい。
- (2) 財務省が公表している「貿易統計」から、1975 年、1990 年、2011 年の日本の輸出総額、輸入総額を調べて答えなさい。また、調べた本あるいはホームページ名も同時に答えなさい。
キーワード：貿易統計 財務省
- (3) 課題文にあるように日本の産業は大きな壁にぶつかっているとありますが、あなたは今後、日本経済を活性化させるためにはどのような産業を重点的に強化、育成すればよいと考えますか。理由を説明しながら、600 字以内でまとめなさい。

国際経済履修モデルを選んだ方

- (1) 課題文の要約を 800 字以内でまとめなさい。
- (2) 「政府統計の総合窓口」(<https://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>)で公表されている農林水産物輸出入概況 2011 年（平成 23 年）確定値（第 1 報）の「輸入動向」 「表 7 主な輸入品目と金額」を用いて、TPP 参加国のうち、米国、カナダ、チリ、豪州のそれぞれの国から日本への輸出額が最も大きかった品目を調べて答えなさい。また、調べた本あるいはホームページ名も同時に答えなさい。
キーワード：農林水産物輸出入概況、2011 年、主な輸入品目と金額
- (3) 課題文のように TPP への積極的な参加が、日本経済の再建につながるとする主張がある一方で、農業などの産業が他国との競争にさらされ衰退する危険があると指摘する見解もあります。これらの対立する見解についてのあなた自身の考えを 600 字以内でまとめなさい。

地域経済履修モデルを選んだ方

- (1) 課題文の要約を 800 字以内でまとめなさい。
- (2) 北海道庁が公表している「北海道統計書」から国勢調査による平成 17 年から平成 22 年の 5 年間の北海道の人口増加率、各総合振興局、各振興局の人口増加率を調べなさい。
また、調べた本あるいはホームページ名も同時に答えなさい。
キーワード：北海道統計書、平成 24 年、市区町村別人口
- (3) 北海道では多くの市町村が人口の減少や高齢化に直面しています。あなたはこれらの市町村の人口減少や高齢化に対処するためにどのようなことを行っていくべきだと思いますか。あなたの考えを 600 字以内でまとめなさい。

経済政策履修モデルを選んだ方

- (1) 課題文の要約を 800 字以内でまとめなさい。
- (2) 厚生労働省の「社会福祉施設等調査」から、日本の保育所について、平成 22 年の定員数と在籍者数を調べて答えなさい。また定員数は 10 年前の平成 12 年と比較して何人増加しているか、調べて答えなさい。
キーワード：平成 22 年度社会福祉施設等調査、厚生労働省
- (3) 少子化の進行は、社会の様々な側面において大きな影響を与えます。そのため、政府としても原因を分析し対策を講じてきたが、いまだ十分な成果が上がりません。今後、少子化対策はどのようにすべきだと思いますか、あなたの考えとその理由を 600 字以内でまとめなさい。

2013年度 A0入試 (A方式) 課題文と資料

企業・産業履修モデルを選んだ方

- ・課題文

野口悠紀雄「日本経済を再生するには？」

週刊ダイヤモンド 4月14日号 ダイヤモンド社 p60～63

国際経済履修モデルを選んだ方

- ・課題文

畠山 襄「TPP参加と農業の発展は両立する-自由貿易堅持の反転攻勢に出よ」

文藝春秋編「日本の論点 2012」 文藝春秋社 p260～263

- ・参考資料

文藝春秋編「日本の論点 2012」 文藝春秋社 p268～269

地域経済履修モデルを選んだ方

- ・課題文

伊藤喜平「こうすれば人は集まる。人口を増やし、出生率を上げたわが村の逆転発想」

文藝春秋編「日本の論点 2007」 文藝春秋社 p406～409

- ・参考資料

文藝春秋編「日本の論点 2012」 文藝春秋社 p432～433

経済政策履修モデルを選んだ方

- ・課題文

渥美 由喜「出生率 1.32 に回復抜本策はこれから」

日本経済新聞社編「日経 経済教室セレクション」日本経済出版社 p160～164

作成上の注意事項

課題を作成するに当たっては以下の注意事項を守って作成してください。注意事項は裏面にもあります。

全体を通して

1. 作成に当たって、レポート用紙への記入は「手書き」でも「ワープロで作成したもの」を貼り付ける」のどちらでもかまいません。ワープロで作成した文書をプリントアウトして貼り付ける場合は、はがれないようにしっかりとのり付けしてください。
2. 課題に取り組む際には、インターネットや新聞・雑誌・本などで課題文にある内容について調べてください。ただし、これらの文章を書き写した(盗作した)場合は厳重なペナルティを課します。あくまでも自分の言葉で書いてください。

課題1に関して

3. 課題1では学部広報誌(W I NMAN)にある4つの履修モデルの内容をしっかりと読み、どのモデルに沿って科目を履修していきたいのかを考え、それをまとめてください。まとめる際には、なぜ選んだのか?どの科目を履修してみたいか?将来どのような職業に就きたいかといった内容を加えるとより充実した内容になります。

課題2に関して

4. (1)の課題において、要約とは、課題文の要点を書き出すのではなく、短くまとめることを指します。単なる書き写しではなく、できるだけ自分の言葉で800字以内にまとめてください。
5. (2)の課題については設問に記されている文献かインターネットで調べてください。インターネットで調べる際には、設問の下にあるキーワードを検索サイトなど検索すると調べることができます。調べた文献またはホームページを7の参考文献の記入例に沿って記入してください。
6. (3)の課題については課題文を読んで、設問に対する自分の考えを600字以内でまとめてください。この設問の解答は一つだけではありません。自由な発想であなたが考えたアイデアをまとめてください。
7. 課題2を行うに当たって用いた資料を参考文献欄に必ず記入してください。記入の仕方は以下の通りです。

(新聞の場合)『北海道新聞』2009年12月31日付朝刊

(図書の場合)平澤亨輔ほか著、「拓銀破綻後の北海道経済：地域再生と金融の役割」,
日本経済評論社,2008年

(教科書の場合)「政治・経済」, 三省堂

(HPの場合) 環境省「環境経済成長ビジョン～チャレンジ25を通じた経済成長～」

<http://www.env.go.jp> (ホームページアドレスは” ……….jp” までを記入すること)

課題に関する質問の受付

8. 課題に関して質問がある場合、一度だけ受け付けます。レポート課題について、教員への直接問い合わせたい場合は、9月3日(月)から9月8日(土)までの期間に下記のメールアドレスから質問をしてください。なお、問い合わせ方法は、メールのみとします。件名欄に「課題の質問」として、本文に質問内容を記入してください。

問い合わせ先 : hirasawa@sgu.ac.jp

※経済学部の平澤が対応します。大学研究室のパソコンで使っているアドレスです。
携帯電話からのメールの場合、パソコンからのメール受信を拒否する設定をしていると、平澤からのメールを受信できませんので設定を変更してください。